



# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆  
連絡先 090-7118-2312

## 止めよう！安倍政権の暴走

1914年に第1次世界大戦が始まりました。初めての世界規模の戦争です。そしてその後、ドイツの敗戦、1929年に始まった世界大恐慌、不況の中で台頭したナチス、やがて第2次世界大戦、日本の敗戦という歴史の流れがあります。先日のダボス会議で安倍首相は現在の日中関係を第1次世界大戦前の英独関係になぞらえてスピーチをしたと伝えられています。経済関係が密接であっても戦争は起こりうると言いたかったのでしょうか。しかし前後を読むと、中国の著しい軍事費の膨張には触れても、日本の自衛隊の強化、先の臨時国会で数を恃んで強硬採決した日本版NSC法、特定秘密保護法など軍備を前提にした法の成立、また今に至るまでの日中関係の経緯には触れず、日中関係を改善しようという熱意が感じられない中でのスピーチは欧米メディアの違和感を誘っただけでなく、昨年暮れの靖国神社参拝の行動とも合わせ、私たち国民は、大きな危機感を覚える年頭となりました。



### 「基地は要らない！」沖縄県民の勝利

去る1月19日沖縄県名護市の市長選で稲嶺進氏が再選され、辺野古に基地を作らせないという市民の意思が明らかになりました。沖縄の民意は、もうこれ以上米軍の基地は要らない、普天間はもとより普天間を遥かに越えて永久基地の感のあるあるキャンプ・シュワブの拡張（辺野古）もごめんということです。政府は選挙結果を無視して、直後に埋め立て工事などの調査・設計を行う業者を選定するための入札を公告しました。これが民主主義を標榜する国のすることでしょうか。「沖縄の方々の気持ちに寄り添いながら」という首相の国会答弁が白々しく聞こえます。辺野古が出来ないと普天間は返還されないという論があります。逆です。辺野古に作らせないことが、危険極まりない普天間から米軍を撤退させることに繋がるのです。



また防衛省の内部資料では、埋め立て用の土砂は小豆島福田港南ほか瀬戸内海の国立公園4箇所から採るとされています。緑を削り、サンゴの海を埋める、環境面からいっても重大問題です。沖縄で起きていることは、本土に住む私たち自身の問題です。

### 集団的自衛権行使は認めない

国会が始まり、安倍首相は改憲への意欲を語りました。まず解釈変更によって集団的自衛権の名で武力行使の縛りを緩めようとしています。憲法九条を持つ国として武力によらない国際貢献をしてきたわが国のありようを大きく変え、緊張を高める働きをします。芦屋「九条の会」では、3月1日に「集団的自衛権」についての学習会を行います。この機会に是非ご参加下さい。（詳細は同封のチラシをご覧ください）